

令和7年度第3回 京都市京北地域公共交通会議

日 時：令和8年2月6日（金） 14：15～14：45

場 所：右京区役所京北出張所 2階大会議室

出席者：別紙「出席者名簿」参照

1 開会挨拶

○ 井上会長

本日はバスで来たが、梅ノ尾より先で降車する乗客が3名いた。これが多いか少ないかという、中々判断は難しい。ただ、その3人にとっては、なくてはならない公共交通だと私は考えている。

一方で、運転士が不足しており、どこのバス会社からも良い話は聞かない。万博が終わって、運転士の応募が若干あったようだが、来年度以降は運転士の確保が厳しい状況のようだ。そうした中で、バスがどこを担い、バス以外の公共交通がどこを担うのかという役割分担を真剣に考える時代がやってきたと思われる。人口が多い京田辺市でもデマンド交通の実証運行が行われるなど、非常に大きな変化が起こっている。この京北地域でも最適な公共交通は何かということをお話しできればと思っており、よろしく願います。

2 議題

(1) 京北地域でのデマンド交通乗車体験の実施について

※ 事務局から資料3「京北地域でのデマンド交通乗車体験の実施について」に沿って説明

○ 中垣委員代理（国土交通省近畿運輸局京都運輸支局）

今回のデマンド交通の乗車体験については、道路運送法の範囲から外れた許可不要の無償運送の形で行われるので、道路運送法における安全基準などは設けられていないものになる。今後の実証に当たって、安全措置の部分は必要になってくるため、十分な措置を講じていただくようお願いする。また、利用者はデマンド交通自体にあまり触れられたことがないかと思われるので、事前予約の必要性等について、丁寧な説明をお願いする。

○ 事務局

一点目の安全措置については、きょうと京北ふるさと公社とも連携しながら進めていく。これまでも同公社は京北ふるさとバスを運行されており、運行管理については点呼を含めしっかりと行う。今回協力いただくドライバーの皆様についても、国土交通大臣認定の講習を受けていただくなど、安全面には配慮していきたいと考えており、アルコールチェックや体温チェックも含め、万全の体制を整えて運行に臨む。

二点目の広報活動については、地域の交流活動の場などで、予約方法も含め丁寧な説明を行う予定。デマンド交通の導入に向けて、多くの方に利用いただくことで、様々な課題を洗い出して、今後につなげていきたいと考えている。

○ 井上会長（龍谷大学）

弓削地域では現在、「チーム弓削」というボランティアによる送迎が行われていると聞いているが、これはどんな形態で行われているか、分かれば教えていただきたい。

○ 事務局

こちらで把握している範囲で説明する。右京区社会福祉協議会京北事務所に、福祉有償運送のボランティアとして活動されているメンバーの方々が、元々は「チーム上弓削」として、上弓削地域でマイカー送迎事業を始められたものが、今年1月に弓削地域全域に広がったものと認識している。基本的には買い物や病院、地域のサロン事業への送迎等に利用されているとお聞きしている。無償運送として、実費相当の1,000円の謝礼を受けて、近畿運輸局にも確認したうえで運行されている。地区ごとに担当ドライバーが決められており、担当ドライバーの携帯電話などに直接連絡する形で予約を受けられている。毎日運行ではなく、水曜日と土曜日といった特定の日に行われていると伺っている。

○ 井上会長（龍谷大学）

初めてのデマンド交通であり、予約への抵抗感などを懸念していたが、普段からデマンド交通に近い形で電話予約されていて、今回の乗車体験はそれに近いサービスだと理解いただけそうで安心した。

○ 事務局

弓削地域ではボランティアによる送迎サービスが既に行われており、電話予約をされる土壌があり、抵抗感が少ないと考えている。こうした送迎サービスを利用されている方々を含め、まずは今回の乗車体験を通じてデマンド交通に対する御理解をいただき、アンケートにもお答えいただくことで、次につなげていきたいと考えている。

○ 井上会長（龍谷大学）

適切な進め方だと思う。先行事例を見ると「よく分からない」という理由で登録されない方が多いのだが、「チーム弓削のサービスに近いもの」と伝えれば、イメージが湧きやすく抵抗なく使っていただけるのではないかと期待できる。実施前の声掛けで、どれだけ関心を持っていたかがポイントとなるため、よろしく願います。

⇒ 議題「京北地域でのデマンド交通乗車体験の実施」について承認

(2) 「路線バスで行く『いけいけ京北 親子でGO!』の実施について

※ 事務局から資料4「路線バスで行く『いけいけ京北 親子でGO!』の実施について」に沿って説明

○ 中垣委員代理（国土交通省近畿運輸局京都運輸支局）

販売方法がオンライン決済・電子チケットで調整中ということだが、昨年度までは窓口販売だったのか。

○ 事務局

前回は京都駅と周山のバスターミナルでの現金のみの販売であった。今回は利便性を考慮し、旅行会社を通じてオンラインでの販売に変更させていただいた。

○ 井上会長（龍谷大学）

受入施設の方の感想などは聞いているか。

○ 事務局

昨年度は5日間で30組87名の方に参加いただいた。参加者からは「とても楽しめました」「京北が好きになりました」「また絶対に来ます」といった、次につながるお声をいただいている。受入施設側からも、京都市内中心部から来られた親子連れとの交流が深まり、その後も個別で施設を訪問される方がいるといったお話を伺うなど、本取組が公共交通の利用促進だけでなく、地域活性化にもつながる取組となっていると認識している。今後も地域主体の持続可能な取組となるよう、サポートしていきたいと考えている。

○ 井上会長（龍谷大学）

公共交通の利用促進はもちろんであるが、違う地域に行って楽しい体験をし、リピーターになることは移住促進のチャンスでもある。また、来られた方から「良かった」と言われることで、地域の方々の住んでいる地域に対する誇り、いわゆる「シビックプライド」が高まり、より良いまちづくりにつながる非常に価値のある取組だと思う。

⇒ 議題「路線バスで行く『いけいけ京北 親子でGO!』の実施」について承認

3 閉会挨拶

○ 藤原委員代理（京都市都市計画局歩くまち京都推進室）

本日、2つの議題について審議いただいた。冒頭に井上会長からもあったが、運転士不足は非常に深刻な状況である。民間バス事業者でも路線の見直しや減便が起きており、京北地域の足を担っていただいている、きょうと京北ふるさと公社においても、運転士の確保に苦労されていると聞いており、地域の足を守ることが難しくなっているのが現状である。

一方で、高齢化が進み免許返納など、御自身での運転が困難になる方が増える中、社会参加のための移動手段を確保する必要がある。京北地域では右京区社会福祉協議会など、独自に移動サービスを進めておられ、本市としても京北地域の実情を踏まえた公共交通の在り方を真剣に検討するタイミングが来ていると認識している。

今回のデマンド交通に関して、全戸アンケート調査の結果では「ドアツードア型」のサービスを期待するお声をいただいている。「デマンド交通」という横文字の言葉は、高齢者には馴染みが薄いかもしれないが、まずは今回の乗車体験を通じて、地域の方々が触れて、知っていただき、意見をいただくことで次につなげていきたいと考えている。まずは「乗ってみよう」と声を掛け合って乗っていただけるとありがたい。これが、地域の足を守ることにもつながっていくと思う。

また、利用促進の取組について、バスを運行したくても運転士不足で運行できないという

状況になっており、バス路線を維持するためには、何より多くの方に乗っていただくことが大切である。その一環として行う「路線バスで行く『いけいけ京北 親子でGO!』」については、リピーターの確保や地域活性化につなげていきたいという思いで取組を進めているところである。今後も地域の皆様のお声に耳を傾けながら、京北地域の公共交通をしっかりと考えていくので、引き続きの協力をお願いします。

令和7年度第3回京都市京北地域公共交通会議 出席者名簿

委員氏名	所属・役職	当日出席者
朝倉 恵介	西日本ジェイアールバス株式会社取締役安全運行本部長	(代理出席) 岩村副本部長兼計画部長 (委員随行) 島川支店長
石井 友輝	京都府右京警察署地域課京北交番所長	同左
井上 学	龍谷大学文学部歴史学科日本史学専攻教授	同左
大庭 拓	京都府右京警察署交通課長	同左
岡部 哲使	南丹市地域振興部地域振興課長	(欠席)
久保 和平	公益財団法人きょうと京北ふるさと公社理事長	同左 (委員随行) 山下部長
児玉 宜治	京都市交通局自動車部長	(代理出席) 藤井担当係長
田中 章仁	京北自治振興会会長	同左
長尾 由規夫	京都市都市計画局歩くまち京都推進室長	(代理出席) 藤原事業推進担当部長
中野 幸太	国土交通省近畿運輸局京都運輸支局首席運輸企画専門官	(代理出席) 中垣運輸企画専門官
樋口 泰弘	京都市右京区副区長 (京北出張所長)	同左
廣瀬 義弘	西日本旅客鉄道労働組合西日本JRバス地方本部京都分会執行委員長	同左
松井 聡	京都市建設局土木管理部京北・左京山間部土木みどり事務所長	(代理出席) 多田次長

○：会長

(敬称略、五十音順)